

屋久島世界遺産地域科学委員会 ヤクシカ・ワーキンググループについて

1 ヤクシカ・ワーキンググループの設置の目的

厳正な保護を図るべき屋久島世界遺産地域においてヤクシカの採食等により森林の植生や希少植物の生育等に悪影響が出ていることから、世界遺産地域におけるヤクシカ被害について対策を講じるにあたり、科学的知見に基づいた助言を得ることを目的として、屋久島世界遺産地域科学委員会設置要綱第4条第5項に基づきヤクシカ・ワーキンググループを設置する。

2 ヤクシカ・ワーキンググループの出欠

【科学委員会委員】 5名

矢原 徹一	九州大学大学院理学研究院教授(座長)
吉良 今朝芳	鹿児島大学元教授(副座長)
荒田 洋一	樹木医(屋久島在住)
立澤 史郎	北海道大学大学院文学研究科助教
松田 裕之	横浜国立大学大学院環境情報研究院教授 (欠)

【特別委員】 4名

手塚 賢至	ヤクタネゴヨウ調査隊代表(屋久島在住)
矢部 恒晶	森林総合研究所九州支所森林動物研究グループ長 (欠)
濱崎 伸一郎	(株)野生動物保護管理事務所関西分室長
杉浦 秀樹	京都大学野生動物研究センター准教授

合計 9名

3 経緯等

平成 22 年 7 月 28 日 平成 22 年度第 1 回屋久島世界遺産地域科学委員会において、ヤクシカ・ワーキンググループの設置について承認

平成 22 年 10 月 15 日 第 1 回ヤクシカ・ワーキンググループ開催(鹿児島市)

平成 22 年 12 月 22 日 第 2 回ヤクシカ・ワーキンググループ開催(鹿児島市)

平成 23 年 6 月 19 日 第 3 回ヤクシカ・ワーキンググループ開催(鹿児島市)

平成 23 年 12 月 17 日 第 4 回ヤクシカ・ワーキンググループ開催(屋久島町)

平成 24 年 6 月 21 日 第 5 回ヤクシカ・ワーキンググループ開催(屋久島町)

平成 25 年 2 月 21 日 第 6 回ヤクシカ・ワーキンググループ開催(熊本市)

平成 25 年 9 月 27 日 第 7 回ヤクシカ・ワーキンググループ開催(屋久島町)

平成 26 年 2 月 28 日 第 8 回ヤクシカ・ワーキンググループ開催(鹿児島市)

4 平成25年度WG(第7回)の主な委員の意見

① 生息数の推定について

- ・生息密度推定のモニタリングは、確実な手法が確立してないため誤差が生じるのはしかたないが、継続的に調査することで傾向が分かるので、環境省、林野庁、鹿児島県で連携を取って共通認識を持ちながら進めていくこと。

② 捕獲場所や地域別の捕獲体制等について

- ・個体数管理の方法としては、低標高地と隣接する700m位までの管理をここ数年で見通しを立て、それから中央部について取り組んでいくこと。
- ・標高700m以上の高標高域では、捕獲圧がないため警戒心の低い個体が多いことから、目標を決めて専門的な捕獲技術者集団により短期間に着実に進めていくことを検討する必要がある。なお、高標高域で捕獲する場合は、里地でも捕獲数を減らさないことが重要であり、捕獲者の役割分担が必要である。

③ 生態系管理の目標について

- ・生態系管理は、流域等の生態学的な組み立てを考える地域区分をベースとして、降水量という環境区分、奥岳・前岳等の上下区分、特に標高700mを境に天然スギの有無等により動植物の組成が違ってくることを考慮して、目標を設定することが必要である。
- ・生態系管理の目標は、WGで検討したものを科学委員会に上げていくことになるが、世界自然遺産地域の管理という観点から見れば、シカの管理を順応的に行うことを目的とした生態系管理の目標だけでなく、もう少し理想的な遺産地域の目標に向かって行く必要があることを認識しておくこと。

5 平成25年度WG(第8回)の検討事項等

① 関係機関の取組状況(概要)について

② ヤクシカ対策について

(1) ヤクシカ対策の現状と今後の方針について

- ・生息頭数調査
- ・被害防除
- ・個体数調整

(2) 生態系管理の目標及びそのモニタリング手法の検討